様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ２ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｈ０６１１１

研究課題名（和文）中国思想のグローバル化――18世紀在華イエズス会士の報告を中心に

研究課題名（英文）Globalization of Chinese Thought through the Translation by the 18th-century Jesuits

研究代表者
新居　洋子（NII, Yoko）

東京大学・東洋文化研究所・特任助教

研究者番号：１０７５７２８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、フランス、台湾、そして中国大陸の各機関における史料調査を通して、おもに次の２点を明らかにした。（１）18世紀、とくに禁教体制確立以降における、天主教を信仰する満洲旗人と在華イエズス会士との日常的交際の実態、ならびにこうした交際が在華イエズス会士による中国思想の翻訳全体に影響を与えた可能性が高いことを明らかにした。（２）18世紀後半の在華イエズス会士がはじめてヨーロッパへ『四訳館考』、『大清一統志』、『華夷訳語』の内容をもたらし、清朝による帝国統治および国際関係をめぐる理解に、大きな影響を及ぼしたことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In this study, I mainly discussed the following two points through survey of historical documents in France, Taiwan, and China. (1) Actual state of daily interaction between the Christian-Manchu bannermen and the Jesuit missionaries in the 18th century, especially after the order to ban Christianity, as well as its influence on the translation of Chinese thought by the Jesuit missionaries in China. (2) The first translation of "Siyi guan kao", "Daqin yitong zhi" and "Huayi yiyu" in a European language by a French Jesuit in the 18th century broadly circulated in Europe and provided a basis for their understanding of the imperial rule and international relations of the Qing Dynasty.

研究分野：東西交渉史

キーワード：在華イエズス会士　満洲旗人天主教徒　四訳館考　大清一統志　華夷訳語　康熙帝遣詔　東西思想交渉

１．研究開始当初の背景

近年、海域アジア史などの領域において、19世紀以前のグローバル化、とくに東アジアの側からのグローバル化をめぐる議論が盛んである。これらの議論により、グローバル化が近代以降にはじまり、またもっぱらヨーロッパを中心に進展したとする従来の見方は、根本的見直しを迫られている。ただしこれらの研究が主な対象としてきたのは、銀や生糸、茶などのモノ、あるいは海商や海賊といったヒトの流通である。思想に関しては、19世紀以前の東アジアを起点とするグローバル化という視点からの研究は未だ現れていない。当該時期、東アジア思想のグローバル化といえる現象は存在したのか。存在したとすれば、それはどのような経過をたどり、受容側の思想ならびに思想史上において、どのような成果をもたらしたのか。そして同じく重要な問題として、その限界とはいかなるものだったのか。これらの問題については未解明のまま残されているのである。

２．研究の目的

上記の背景を踏まえて、本研究では、近代に入る前の時期における中国思想のグローバル化の過程と意義、限界を解明することを目的とする。おもな研究対象として 16～18 世紀、中国で活動したイエズス会宣教師（以下、在華イエズス会士）を取り上げる。在華イエズス会士は、中国思想をめぐる膨大な報告をヨーロッパへ送り続け、中国思想が東アジアの外へ伝播していく過程においてもっとも重要な役割を担っていた。本研究ではとくに膨大かつ精密な報告を送った 18 世紀の在華イエズス会士に焦点をあて、彼らの報告の分析を通して、以下の諸問題の解明を行う。

(1) その中国思想の理解および翻訳の全体像。

(2) 在華イエズス会士による報告の、ヨーロッパにおける受容ならびに流通の実態。

以上の解明を通して、中国思想のグローバル化における成果と限界の両面について明らかにする。

３．研究の方法

本研究の計画と方法は、(1)史料の調査ならびに読解を柱とする。さらに途中ならびに最終的な成果発表として(2)国際学会における発表、(3)学術誌などへの投稿を行う。

(1)史料の調査ならびに読解においては、本研究の基本史料として、在華イエズス会士の報告を、手稿と出版物の両面において調査し、読解を進める。手稿と出版物の両方の調査を行うのは、本研究が在華イエズス会士の思想とその受容の両面について総合的に検討を行うためである。また在華イエズス会士が報告を作成する際に用いた中国文献についても調査し、特定を行う。その上で、在華イエズス会士の報告と、彼らが用いた中国文献の比較対照を行い、中国文献に対する理解および翻訳の内容、性質について明らかにする。この作業を経て、在華イエズス会士自身の独自性がどの部分に織り込まれたのかという問題が、解明されるはずである。

以上の成果および目指す方向性について、順次成果発表を行い、方向修正と補足に努める。

４．研究成果

<u>(1) 天主教を信仰する満洲旗人との交際の</u>

実態の解明

まずフランス国立図書館写本室、台湾中央研究院傅斯年図書館および故宮博物院図書文献館での調査を通して、ラテン語‐漢語‐満洲語辞書（または文例集）の写本、ならびに北京四堂（内城にあった東西南北四つのカトリック教会）のうち北堂在住のフランス出身在華イエズス会士たちと交流があったと考えられる、ある満洲旗人父子に関する漢文および満文檔（トウ）案を多数発見したことがおもな成果として挙げられる。

ラテン語‐漢語‐満洲語辞書（または文例集）の写本は、明らかに天主教布教の場面で用いられたとみられる表現が多数みられ、また基本的に書面語というより口語的な表現で占められており、天主教を信仰する満洲旗人と宣教師との密接な関わりをうかがわせる。

この点は、後者の史料である漢文および満文檔（トウ）案によって補強される。これらの檔（トウ）案に関しては、対応するヨーロッパ側史料（在華イエズス会士の報告）もあわせて調査し、関連する史料の調査も行った。その結果、フランス国立図書館所蔵の中国天主教関連の漢文書籍のなかに、これらの父子が１８世紀の北堂でかなり精力的に活動していたことを示す、有力な史料を見出すことができた。

康熙末期～雍正初期に禁教体制が確定した後、少なくとも公式には、宣教師は天文学や地図作成、絵画作成などの技能によって宮廷に仕える者としての身分においてのみ中国滞在を許され、北京内城の四堂のいずれかに居を定めてみだりに移動しないことが義務づけられた。このように活動範囲のきわめて限られたなかで、内城に居住し、場合によっては数世代にわたって天主教を信仰する満洲旗人がおもに四堂において宣教師と日常的に交際していたことが、これらの檔（トウ）案によって明らかとなった。

これらの史料によって示された、天主教を信仰する満洲旗人との日常的交際の実態は、在華イエズス会士の具体的な実践を示すという点だけでなく、彼らの中国思想の翻訳全体にも影響を与えた可能性が高いという点においても、今後さらに解明していくべき課題であると考えている。

(2) 『四訳館考』、『大清一統志』、『華夷訳語』の翻訳、およびそのヨーロッパにおける影響

さらに１８世紀後半の在華イエズス会士アミオの報告を分析し、その結果、アミオの報告のなかに、清代に作成された『四訳館考』および『大清一統志』のフランス語訳があることがわかった。それだけでなく、四夷館および四訳館において編纂された『回回館訳語』、『暹羅訳語』など、各館の『華夷訳語』の翻訳も見出すことができた。これらは清朝がその拡大し、かつ多様化していく版図および国際関係をいかに運営していたかを示す重要な文献であり、在華イエズス会士が同時期清朝による帝国統治および外交関係の展開をつぶさに観察し、またヨーロッパへ伝えようとつとめていたことを示している。またこのアミオによる翻訳は、これ以降さまざまなヨーロッパ知識人による著述において頻繁に引用されており、広く影響を及ぼしたことが明らかである。

(3) 康熙（帝）遺詔の翻訳を題材とした国際比較の可能性

さらにフランス国立図書館では、フランス出身在華イエズス会士ジェルビヨンが作成したと思われる、いわゆる康熙（帝）遺詔のフランス語訳稿を調査した。こちらは手稿のまま保管されたため、ヨーロッパで広く流通することは無かったが、康熙（帝）遺詔はたとえば日本でもほぼ同時期に流通し、学者によって読解されている。この史料によって、在華イエズス会士による翻訳の意義を考える上で、ヨーロッパにおける流通のみに目を向けるのではなく、たとえば漢字（文）文化圏における中国思想解釈との比較を通して、より国際的な視点から捉え直していく必要性が明らかとなった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１　件）
①新居洋子、「清朝宮廷における西洋音楽理論の受容」、『中国の音楽文化』アジア遊学 201、査読無、2016、124-144.

〔学会発表〕（計　６件）
①Yoko Nii, "Questioning the East-West Boundary in the Intellectual History ", 3rd Joint Conference between NTU and UTokyo, Main Conference Room, IASA, The University of Tokyo (Bunkyo-ku, Tokyo), January, 2017.

②新居洋子、「清代北京におけるカトリック宣教師と現地の人々との接触」、東方学会平成 28 年度秋季学術大会、京都市国際交流会館 3 階会議室（京都府京都市）、2016.11.

③新居洋子、「18 世紀中国人による、フランス語で描かれた中国像」、東アジア文化交渉学会第 8 回年次大会、関西大学千里山キャンパス（大阪府吹田市）、2016.5.

④新居洋子、「十八世紀入華耶蘇会士所撰写的中国古代史：其思想特徴及意義」、2015 中央研究院明清研究国際学術研討会、中央研究院人文社会科学館会議室（台湾台北市）、2015.12.

⑤新居洋子、「中国最初の西洋音楽理論書」、東方学会平成 27 年度秋季学術大会、日本教育会館（東京都千代田区）、2015.11.

⑥新居洋子、「近世東アジアにおける西学受容と「中国」観の変容」、第 3 回東アジア若手歴史家セミナー、ソウル大学（韓国ソウル市）、 2015.8.

〔図書〕（計　１　件）
①後藤末雄・新居洋子、国書刊行会、『乾隆帝伝』、2016 年、総 414。

〔産業財産権〕

○出願状況（計０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者

新居　洋子（NII, Yoko）

東京大学・東洋文化研究所・特任助教

研究者番号：１０７５７２８０